

合同技術部会ワークショップW3-5 当院におけるキャリアアップと技師認定制度 ～看護師にとって魅力ある技師認定制度へ～

松田健太郎

医療法人財団樹徳会 上ヶ原病院

看護職の能力開発・評価やキャリアアップのシステムとして多くの施設で取り入れられているものにクリニカルラダーやキャリアラダーがある。クリニカルラダーは看護師の看護実践能力を段階的に表し、各段階で期待される能力を示し、到達度によって看護師の能力が示されるシステムである。また、キャリアラダーはクリニカルラダーの内容に加え、管理的な能力の段階や専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了看護師としての段階が含まれ、キャリア開発を念頭においたものである。多くの施設で取り入れられているラダーだが、その内容やレベル基準は施設ごとに異なっており、現在日本看護協会がその標準化を図ろうとしている。当院でも、クリニカルラダーを使用し、スペシャリスト・エキスパート・管理職それぞれの道を目指すシステムとなっており、専門技師資格取得はエキスパートに位置している。

当院では平成6年より高気圧酸素治療 (HBO) を開始し、私自身は平成19年より、その業務に携わっているが現在までに専門技師認定試験にチャレンジしたのは、わずか3名に留まっている。更に当院でクリニカルラダー制度が導入された平成26年以降では0となっており、HBO実施施設とはいえ、看護師にとって興味をひく資格ではないことが予測できる。医療の高度化・専門分化に伴って、看護師も更に上の看護を目指し専門性を身につけることや資格の取得が求められている。しかし、残念ながらHBO関連について、その専門性を高めようと志す看護師は少ない。その要因は何なのか、単に看護師において、HBOそのものの認知度の低さだけなのか。今回、看護師であり、自身が専門技師資格を活用しているものとして検討する。

Web上を検索すると、看護師のキャリアアップについてのアンケート結果が数多く報告されている。そのような報告において、看護師が魅力を感じる資格の上位に必ず入っているのは、認定看護師・専門看護師であ

った。そして、HBO関連の資格については、その言葉すら目にする事はなかった。また、キャリアアップを目指す理由としてあげられるのは、大別して次の3つとなっていた。それは、「個々の専門性を高めるため」「患者やその家族へよりよい看護を提供するため」「昇給や昇格といった待遇に関するもの」である。この結果は、私自身がAHA BLSコース・ACLSコースにおいてインストラクター活動をする看護師に対して行ったアンケートでもほぼ同様の内容であった。やはり看護師は看護師、看護の活躍できる場において、自身のスキルアップを望むのは当然だろう。では、HBOにおいて看護が活躍する場はあるのだろうか。もちろん活躍の場は数多く存在する。例えば「安全安楽に治療を受けるための準備と患者教育」や「HBOに関連したストレスや有害事象の予防及び早期発見とその対応」などである。実際にHBOに関わると看護が必要とされる場が数多く存在することに気付くだろう。しかし、現状は医療機器の操作や臨床工学技士の仕事といったイメージが先行しているのではないか。現在国内で出版されているHBO関連の書籍を見ると、なかなか看護の二文字を見つけることはできない。しかし、「Hyperbaric Medicine Practice 4th Edition」という米国の書籍を開くと第6章に「Hyperbaric Nursing」という項目がある。日本と資格制度は違うとはいえ、看護という言葉が存在しているのは看護師にとって興味深いことである。

昨年4月の診療報酬改定以降、HBOの需要は高まっており、看護師がHBOに関わる場面が増えていると予測する。私自身も専門技師としてHBO業務に関わるなか、幾度となく看護の力に助けられた。しかし、HBOにおける看護はまだ未開拓な部分が多く、看護師自身にも看護の活躍の場という認識が低い。専門技師資格は看護師も取得可能であり、看護師にも魅力ある認定制度となるようHBO看護の普及を目指して行きたい。